

問い合わせ

社会教育課教務係 (☎内線467)

史跡の保存と活用

教育長 木村 甚治

日本では、昭和30年代後半からの高度経済成長期には、都市開発と遺跡保存の関係をどうするかという大きな課題がありました。太宰府では地権者をはじめ地域の方々の理解を得ながら、文化庁とともに大宰府政庁跡を中心とした地域を、一地方だけでなく国の宝でもあるとして、特別史跡や史跡に指定し、保護しながら現在までその範囲を拡大してきました。

従来の文化財行政は、個々の遺産を「点」として指定し、「保存」を重視するものでした。これからは、歴史的経緯や風土に根ざし、世代を超えて受け継がれている伝承を、有形無形の文化財のストーリーをパッケージ化して、訪れたいくなる地域情報として発信したり、地域を愛する人材を育成したりするなど、地域の活性化に活用することが求められています。

このような中、太宰府市では一昨年4月に文化庁から『古代日本の「西の都」』(東アジアとの交流拠点)として日本遺産の認定をいただきました。

東アジアからの文化、宗教、政治、人

などが流入・集積し、外交、軍事の拠点であった大宰府政庁跡と周辺景観は当時の面影をとどめています。これらは1300年前の「西の都」を現代において体感できる場所であり、訪れる人々をいつでも歴史に誘ってくれる史跡地であり、いつまでも大事にしていかなければならない風景であると考えています。



太宰府市教育委員会では、学校、家庭、地域の三者が教育目標を共有し、連携・協働しながら子どもを育てていく『コミュニティ・スクール』として、すべての公立小中学校が学校運営をしています。

また、「だざいふふるさと学習」として、太宰府を愛し、誇る児童生徒の育成をめざし、①「太宰府の歴史と文化を学ぶ」、②「太宰府の歴史と文化に関するフィールドワーク、体験活動の実施」、③「児童生徒の地域行事への参加、参画の推進」という教育活動を全小中学校で取り組んでいます。

教育委員会 新教育長の就任、教育委員の交代について

1期4年を務めた木村甚治教育長が昨年12月24日に任期満了となりましたが、新たな教育委員会制度のもと、市長の任命を受けて新教育長に就任しました。

また、3期12年の長きに渡り教育行政にご尽力いただいた稲積謙次郎委員が、昨年12月24日をもって退任され、後任には桑野委員が就任しました。

教育長

木村 甚治氏



(任期：平成28年12月25日～平成31年12月24日)

昨年12月議会で同意を得て、市長から新教育長として任命されました。

教育委員

桑野 裕文氏



(任期：平成28年12月25日～平成32年12月24日)

市内大学教授として教鞭をとられ、市体育協会の役員としてもご活躍されています。

人権まつりだざいふ2017

2月26日(日)、プラム・カルコア太宰府と露切公園で、人権まつりだざいふ2017を開催しました。

プラム・カルコア太宰府の市民ホールでは、人権作品表彰式や保育所、小中学校、各団体の歌や演奏、取り組みの発表がありました。また2～4階では、各団体が自身の取り組みを、ミニゲームや体験を交えて紹介するコーナー、展示がありました。

露切公園では飲食・物販の販売があり、来場者を楽しませていました。

だれもがいきいきと、その人らしく幸せに暮らせる太宰府を、一緒に育んでいきましょう。



南保育所の園児たちによる合唱